

## 平成30年度「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」事業概要(大館市)

### 1 市の概要(人口 73,001人 平成30年4月1日現在)

就学前教育・保育施設数、小学校数(平成30年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
1園	園	8園	10か所	園	園	17校

その他：へき地保育所7 児童館2 小規模保育1 事業所内6 認可外3

### 2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
<p>(1) 社会や保育の変革に対応するためには、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実、保育課程の見直し、市としての研修・指導体制の構築が必要である。</p> <p>(2) 多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、保育・教育の在り方を共通理解することが難しい。</p> <p>(3) 小学校との情報共有、合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。</p>

### 3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)	
<p>将来の自立を見据え、就学前の段階で育てるべき力を明確にし、教育・保育の一層の充実を図る。ふるさとキャリア教育の理念の下に、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期として、関わる教職員が、子ども理解の在り方、教育・保育課程や指導方法等について共通理解を図り、連携を推進する。</p>	
主な内容(3年間)	
<p>(1) 教育・保育アドバイザーの配置 教育委員会と子ども課へ配置。子ども課の保育アドバイザー、教育委員会の就学支援員とチーム体制で課題の把握と全施設への巡回による指導、研修会の企画。</p> <p>(2) モデル園(基幹保育園5)の幼児教育センター的機能の確立 基幹保育園の研修リーダー(研究推進委員会)による保育の質の向上、就学までに育てたい力の明確化、研究内容の成果物作成。</p> <p>(3) 教職員の資質向上、各園の研修リーダー養成のための研修の充実 県教育委員会の各種研修への積極的参加、個の課題に応じたオーダーメイド研修、市内全保育園のミニ公開保育の実施。</p> <p>(4) 教育・保育課程、指導方法における小学校低学年との系統性の研究 研究推進委員会による調査・研究、仮称「幼保小連携プログラム」の作成。</p> <p>(5) 園と小学校の教職員を対象にした専門性向上のための研修会の開催 互いの授業・保育研究会への参加、講演会・実践発表会等の合同研修会。</p> <p>(6) 研究成果の発信、普及 研修教材冊子の作成・配付。モデル児による映像資料の作成。公開保育による成果の発信。</p>	
年度別重点	
平成28年度	研究推進委員会による調査・研究。教育・保育アドバイザーによる全施設の巡回指導と小学校低学年の実態把握。モデル園による公開保育。専門性向上のための研修会の開催。
平成29年度	1年次の研究成果の周知。教育・保育アドバイザーによる全施設と小学校低学年への巡回指導。幼保小連携の課題の明確化と連携プログラムの試作。モデル児の追跡調査。
平成30年度	モデル園の幼児教育センター機能の運用。教育・保育アドバイザーによる巡回指導と市としての研修体制の確立。モデル児による検証。幼保小連携プログラムの発行。

#### 4 平成30年度の具体

##### 目的

3カ年の事業の成果として、「平成30年度わか杉っ子！育ちと学び支援事業フォーラム in 大館」で全国発信し、就学前教育の質の向上に向けた研究を検証する。  
 幼保小連携における大館市版幼保小連携プログラムを作成する。

##### 実施内容

###### (1) 教育・保育アドバイザーを核にした幼児教育センター機能の確立

- ・全施設に対する指導・助言体制構築
- ・研修会の見直し、課題を踏まえた新たな研修体制の構築
- ・園内研修リーダー、ミドルリーダーの養成
- ・各種マニュアル、様式の統一データの作成と提供
- ・市内施設の公開保育の開催と参加案内
- ・必要に応じた教育・保育アドバイザーの要請・活用

###### ◇アドバイザーに関する具体的な目標

①アドバイザーの配置人数	②主な経歴	③主な業務内容
幼児教育アドバイザー1名	元公立保育所長、元大館市保育アドバイザー	園訪問による指導、研修会での指導及び企画・運営、幼小接続に関する調査、保育者面談
連携アドバイザー1名	元公立小・中学校講師	
④派遣対象施設／地域		⑤派遣期間
幼稚園（私立）、保育所（公立・私立）、幼保連携型認定こども園（私立）、その他（へき地保育所・児童館・小規模保育施設・認可外保育施設・事業所内保育施設・小学校）／大館市		平成30年4月～平成31年3月
⑥派遣目標 計49施設／全55施設 134回		
回数：幼稚園：私立1園（1回） 数：保育園：公立9園（87回）、私立1園（2回） 幼保連携型認定こども園：私立8園（8回） その他の施設：（へき地保育所7園（10回）児童館2か所（2回）、小規模保育施設1か所（1回）、認可外保育施設3か所（1回）、事業所内保育施設6か所（2回）） 小学校：17校（20回）		
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）	（目標のうち、15園（77回）） （目標のうち、9園（13回）） （目標のうち、0園（0回）） （目標のうち、14園（14回）） （目標のうち、0園（0回）） （目標のうち、10園（10回）） （目標のうち、17校（20回））
理由	平成29年度の実績のある施設については平成30年度も要請があるものとして設定した。内容についても実績に基づくとともに、新たに予定しているフォーラム（保育公開）に向けての事前指導等を追加している。最終年であることから、小学校は全校の授業参観や研究会参加をしたい。	
⑦派遣体制		
・アドバイザーが単独で訪問 ・複数のアドバイザーによるチーム派遣 ・県指導主事等との同行		

###### (2) 教育・保育の更なる質の向上に向けた研究推進体制

- ・基幹保育園主任による研究推進委員会の開催（月1回）と私立園の参画
- ・幼保小連携における大館市版幼保小連携プログラムの作成（3月発行）
- ・ファシリテーター研修会（6～9月 年6回）による研究推進リーダーの養成

- (3) 接続期の保育・教育の充実
- ・「幼保小連携プログラム」リーフレットの周知と活用（5月22日・幼保小連携推進会議）
  - ・小学校低学年の授業改善に向けた研究会の開催（5月30日・幼保小担任研修会）
  - ・相互理解のための保育・授業参観、研究会への参加案内
- (4) 園のニーズに応じた研修会の実施
- ・市内施設の公開保育の開催と参加案内
  - ・必要に応じた教育・保育アドバイザーの要請・活用
  - ・オーダーメイド研修（7～2月）、市主催の研修会の開催（1月8日・教職員研究実践発表会）
- (5) 本調査研究の成果の発信
- ・「育ちと学び支援事業」フォーラム in 大館の開催（10月11～12日）
    - 1日目午後 公開保育・研修会（有浦保育園＋有浦小、扇田保育園、たしろ保育園）
    - 2日目午前 講演・パネルディスカッション（大館市民文化会館）

#### 検証・評価計画

	内 容	目標となる指標	時期	評価方法
1	教育・保育アドバイザーを核にした幼児教育センター機能の確立	教育・保育アドバイザーが市内全施設を訪問し、課題を把握したり、園のニーズに対応した指導・助言をしたりする。	～ 2月	訪問実績 訪問記録 県アンケート
2	教育・保育の更なる質の向上に向けた研究推進体制	大館市版連携の指針となる「幼保小連携プログラム」を作成する。	3月	冊子 完成(800部)
3	接続期の保育・教育の充実に向けた幼保小合同研修会の開催	幼保小連携推進会議、幼保小担任研修会を新規に立ち上げる。	5月	園・校の参加率
4	園のニーズに応じた研修会の実施	基幹保育園においてオーダーメイド研修やミニ公開保育を開催し、市内のより多くの園が参加できるよう促す。	7～ 2月	開催回数 参加人数
5	本調査研究の成果の発信	「育ちと学び支援事業」フォーラム in 大館を開催し、全国から保育・教育関係者、行政担当者等400名を対象に、公立3園の保育と園内研修を公開する。	10月	参加人数、参加者感想